

『よるはおやすみ』



はっとり さちえ/作 福音館書店 **E**

ことりさん おやすみなさい。おとなりの しいちゃん おやすみなさい。くさも はなも おやすみなさい。そうだ おつきさまにも おやすみなさいを いいにいこう。

『エルマーと 16 ぴきのりゅう』



ルース・スタイルス・ガネット/さく
ルース・クリスマン・ガネット/え
わたなべ しげお/やく 福音館書店 **933 が**

にんげんに つかまってしまった、りゅうのかぞく。こまったりゅうの子どもは、ともだちの エルマーに たすけをもとめます。ふたりは、りゅうのかぞくが とじこめられている どうくつへ むかいますが、そこには みはりの にんげんがいました。この本は「エルマーのぼうけん」「エルマーとりゅう」につづく最後のおはなしです。

『夜を あるく』



マリー・ドルレアン/作
よしい かずみ/訳 BL出版 **E**

みなが ねしずまった夜。ぼくたちかぞくは、しずかにふくをきがえて、そとにでる。さあ、ぼうけんの始まりだ。きらきらひかる ホテルのまえをとおるすぎ、森へ はいっていく。もうすこしあるけば、すてきなみずうみが みえてくる。

『でんしゃのひみつ』



まよなかの とつきゅうれっしゃ』
溝口 イタル/え 交通新聞社 **546**

よるの ホームに やってきたのは よる はしる「しんだいとつきゅう」。しゃないには ホテルのように ベッドが ついた へやが ならんでいます。みんなが のりこんだら さあ しゅっぱつしんこう!

『まよなかのだいどころ』



モーリス・センダック/さく
じんぐう てるお/やく 富山房 **E**

まよなかに めをさました ミッキーが、くらやみに おっこちていくと、おりたところは まよなかのだいどころでした。そこでは コックさんたちが、あさのケーキを やいていましたが、ケーキにつかう ミルクがたりなくて、さあ たいへんです。コックさんたちは あわてています。

『けもの道 森の写真動物記1』



宮崎 学/著 偕成社 **481**

動物たちにも人間と同じように、毎日とおる道があります。それを「けもの道」といいます。真夜中、森にしかけたカメラには、そこをとおるたくさん動物たちが写っていました。夜の動物たちの姿を、楽しい写真で見ることができます。

『月夜のチャトラパトラ』



新藤 悦子/著 講談社 **913**

カッパドキアのホテルに住む 12 歳の少年カヤは、満月の夜、洞窟で、不思議なこびと「チャトラパトラ」と出会います。仲良くなったカヤは、彼らが自分の探しているあるものについて知っていることに気づきます。こびとや、カヤの周りの人々との出会いを描いた、ちょっぴり不思議な物語です。

